

会計に強くなると、経営も強くなる  
会計を経営に活用するまでの“3ステージ”

日本人経理がない、  
すべての企業様へ！

ステージ

# ③会計情報を経営判断へ活用



西川 和輝  
(日本国公認会計士)

現地経営者が抱える会計の課題について、Array Zでは「会計のべき姿」をテーマに公認会計士であるBBSタイランドの西川氏へインタビュー。現地経営者のためのアドバイスを3ヵ月連続で紹介する。

現地経営者の目的の1つは会社の実態を数字で表現し、それを経営判断に活用することです。会計数値という確かな情報に基づき経営判断をすることで、感覚だけでない、より安定感のある経営が可能です。

【正確かつタイムリーな経理】と、【会計情報の経営への活用】を実現するためには、

## 乗り越えるべき 3つのステージ

西川氏が挙げる、タイ会計実務の課題は大きく2点、「会計数値が不正確かつ出来上がりが遅い」そして「会計情報が経営に活用されていない」という現状だ。

「会計の本来の目的の1つは会

社の実態を数字で表現し、それを

経営判断に活用することです。会

計数値という確かな情報に基づき経営判断をすることで、感覚だけでない、より安定感のある経営が可能です。

現地経営者のためのアドバイスを3ヵ月連続で紹介する。

BBS (Thailand) Co., Ltd.  
シニアコンサルタント

早稲田大学商学部在学中に公認会計士合格。卒業後、あすさ監査法人に入所。上場、中小問わず幅広い規模・業態の監査に従事、その経営を学び、現在に至る。



という3つのステージを乗り越える必要があります。過去2回にわたり、①②について解説してきましたが、今回は最終目的である『③会計情報の経営への活用準備』についてお伝えしたいと思います。

## 会計と経営は密接に関わっている

「会計は経営の実態を数値で表現したものであり、その数値に基づいて次の経営判断が行われるという関係です。稻森和夫氏も著書『実学・経営と会計(日経ビジネス人文庫)』において、「会計がわかるんで経営ができるか」と述べています。会社経営にあたっては、会計は知らないでは済まされない世界です。

例えば、会社の利益率改善が目

標の場合、先ずは会社の売上構造(製品種類別売価×数量)、コスト構造(原価内訳と売上高に対する比率)、及び、販管費内訳と売上高に対する比率)を分析することをお勧めします。そのうえで、売価・原価・販管費をそれぞれ1%改善し

た際の利益への影響をシミュレーションするなどし、その効果と難易度を勘案して費用対効果の高い部分的に的を絞り、改善策を考えます。そして、KPI(粗利、仕損率など改善策の成果を測定する数値)の目標値を設定し、改善策の成果を月次でモニタリングしていく

このように、会社の課題・目標に応じて会計数値を効果的に利用しながら改善策の策定と効果の測定を行っていくことで、感覚だけではない、より安定感のある経営判断を行うことが可能です。

適切な経営判断のためには、会計情報と現場の往復が必要と私は考えます。会計は現場の鏡です。現場に異変があれば必ず会計数値に異変が現れます。会計情報から現場の異変を察知し、現場を見に行き、原因を特定する。また、現場の会計数値を分析してすぐに確認する。そのために、先ずは会計の「なんどなく」の仕組みを理解するところから始められてはいかがでしょうか。

多くの企業様では日本人経理がおらず、非常に苦労をなされていると思います。そういうた企業様を支援することが私どもの使命だと思っています。我々BBSを活用してください！」

## CFO(経理部長)をパートタイム採用



株式会社ビジネスブレイン 太田昭和

設立： 1967年8月

※(2014年3月)

売上高： 77億16百万円<単体>/ 169億73百万円<連結>

BBS (Thailand) Co., Ltd.

27th Fl., Bhiraj Tower at EmQuartier, Unit 2701,  
689 Sukhumvit Rd., Bangkok 10110

お問い合わせ：TEL:099-009-5301 (西川)

E-mail:knishika@bbs.co.jp HP:www.bbs.co.jp/th

